

九州のキリスト教シリーズⅣ

# 平戸松浦家の名宝と禁教政策

## －投影された大航海時代とその果てに－

会期／2013(平成25)年6月8日(土)～8月3日(土)

時間／午前10時～午後6時(入館は午後5時半まで)※日曜休館

会場／西南学院大学博物館特別展室 入場料／無料

主催／西南学院大学博物館 共催／公益財団法人松浦史料博物館

協力／船の科学館・海と船の博物館ネットワーク 後援／福岡市・福岡市教育委員会・福岡市文化芸術振興財団



### 開催概要

海外交流を通じて発展してきた“港市”平戸。1550年にポルトガル船が入港して以降、平戸には南蛮船が往来し、市中にはオランダ、イギリスの商館が設けられました。平戸藩主松浦家は、南蛮貿易を積極的に展開して富を蓄えていき、これにあわせて、平戸では新しい文化、思想も根付くことになりました。

鎖国体制が確立する移行期から、貿易の拠点が長崎に移されると、平戸を取り巻く環境も変化します。しかし一度、萌芽した異国への情趣はなかなか消えることはありませんでした。平戸藩主松浦家にはその傾向が強くなり、蘭癖大名とも称される松浦静山の動きはこれを如実にあらわしています。

他方、禁教政策も実施され、伴天連追放令にはじまり、原城攻めへの参加、そして絵踏などキリシタン弾圧がおこなわれています。長崎で打ち出された政策が、平戸でも断行されていたのです。

本企画展は、南蛮船行き交う“開かれた港市”の華やかさと、ここを治めた平戸藩主松浦家の名宝にスポットをあて、ほかの地域にはみられない港市の姿を紹介しています。あわせて、江戸時代の禁教政策をおこなった平戸藩の実相に迫ります。



### ◇展示構成

#### I 大航海時代と港市平戸

ポルトガル船の平戸来航は、大航海時代のおとずれでした。1553年以降、毎年1～2隻来航するようになり、平戸には南蛮貿易の彩りあふれる町並みが広がりました。ポルトガル船が貿易の拠点を長崎へ移すと、1609年、オランダ船が平戸へ訪れるようになり、市中にオランダ商館が設けられました。1613年にはイギリス商館も設置されるなど、その様相はまさに“開かれた港市”でした。

#### II 松浦家の名宝と異国趣味

1623年のイギリス商館閉鎖、1641年のオランダ商館の出島移転まで、平戸の町は西洋の文物でにぎわいました。平戸を治めていた松浦家はその面影をしのばせる舶来品を収集し、鎖国下においても長崎経由で海外資料を購入していました。特に藩主松浦静山は文武振興とともに、あらゆるものを収集したことも知られます。外交にも長けていた松浦家が収集した名宝のなかには、異国への憧れや関心の高さを示すものが多くあります。

#### III 禁教とその展開

1549年に鹿児島に上陸したフランシスコ・ザビエルは、ポルトガル船の平戸入港を知るや、その翌年には平戸に向かい、キリスト教を布教しました。これにより平戸には多くのキリシタンが誕生しましたが、キリシタン弾圧が厳しさを増すと、潜伏キリシタンとして信仰を守りました。平戸藩では幕府の禁教政策を受けて、原城攻めの参加はもとより、絵踏もおこなわれるなど、これまでの港市平戸の姿とは一変することになりました。

#### IV 平戸の海外交流

ポルトガル船が退去した後、平戸を訪れたオランダ船は松浦家にとっては待望の出来事でした。市中にオランダ商館を設置することが決まり、貿易品を保管した商館・倉庫は次第に拡大整備されていき、まさに貿易の拠点でした。1640年に破壊命令が出されたことによりオランダ商館は取り壊しとなるが、33年間営まれたその跡地からは海外交流の様子を映す数多くの遺物が出土しています。

### 行事予定

2013(平成25)年～2014(平成26)年

#### 【特別展／企画展】

6月8日(土)～8月3日(土) 九州のキリスト教シリーズⅣ  
平戸松浦家の名宝と禁教政策－投影された大航海時代とその果てに－  
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

8月6日(火)～9月10日(火) 九州のキリスト教シリーズⅣ  
平戸松浦家の名宝と禁教政策－投影された大航海時代とその果てに－  
[場所] 公益財団法人松浦史料博物館

8月6日(火)～10月30日(水) 蒙古襲来絵詞と元寇防塁  
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

11月1日(金)～12月14日(土) 大学博物館共同企画  
祈りのかたち－キリスト教と神道、受容と展開－(仮)Part1  
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

12月15日(日)～2014年5月30日(金) 古写真でみる西南学院Ⅲ  
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

2014年1月7日(火)～2月28日(金) 大学博物館共同企画  
祈りのかたち－キリスト教と神道、受容と展開－(仮)Part2  
[場所] 國學院大學博物館

#### 【講演会】

7月6日(土)14:00～16:00 春季特別展関連公開講演会  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂  
[講師] 安高啓明氏(本学博物館学芸員)  
「平戸藩の禁教政策」  
[講師] 久家孝史氏(公益財団法人松浦史料博物館学芸員)  
「平戸松浦家の歴史と伝来する資料」

#### 【せいなんこどもワークショップ2013】

7月20日(土)10:00～12:00  
春季特別展関連イベント「万華鏡をつくろう」  
[集合場所] 西南学院大学博物館2階講堂

9月7日(土)10:00～12:00  
博物館実習生企画「カリグラフィーをかこう」  
[集合場所] 西南学院大学博物館2階講堂

11月9日(土)10:00～12:00  
秋季特別展関連イベント「大学博物館まるごとツアー」  
[集合場所] 西南学院大学博物館2階講堂

2014年3月8日(土)10:00～12:00  
「イースターエッグをさがせ」  
[集合場所] 西南学院大学博物館2階講堂

#### 【その他】

9月～11月 平成25年度早良区アクティブ・エイジングスタンプラリー

2014年1月10日(金)13:00～14:30  
高倉洋彰教授最終講義  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。  
なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

### 西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室  
URL http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/

#### ●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)  
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]  
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]

入館料 / 無料

### 来館者掲示板

大学の67期生です。年齢と共に愛校心が強くなります。  
この博物館は学院のシンボルとして素晴らしい!  
(2013/4/24 卒業生)

小学校6年生です。てんじ品がとてもすごかったです。  
また来たいです。  
(2013/5/2 小学生)

はじめて来たのですが、入館無料で充実していてよかったです。  
また世界史を勉強しなくちゃと思いました。  
(2013/5/23 20代 学生)

福岡ミュージアムウィークの企画で知り、初めて来館しました。  
保存状態のよい資料に驚きました。  
(2013/5/25 50代 主婦)

今回は、初めてご来館いただいた皆さんの声をご紹介します。  
特に5月は福岡ミュージアムウィークをきっかけに初めてご来館いただいた方が多かったようで、とても嬉しい限りです。  
現在、8月3日(土)まで春季特別展「平戸松浦家の名宝と禁教政策－投影された大航海時代とその果てに－」を開催しています。スタッフ一同、皆様のご来館をお待ちしております。

博物館スタッフ S・S



### アクセスマップ ACCESS MAP



- 地下鉄: 福岡空港 → 西新駅下車...約17分  
博多駅 → 西新駅下車...約12分  
天神 → 西新駅下車...約8分  
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- バス: 博多駅バスター → 修験館前...約35分  
天神 → 修験館前...約20分  
※修験館前(バス停)から徒歩5分
- タクシー: 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分  
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分  
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

# News

## 西南学院大学博物館ニュース

Volume 15 2013.6

◎西南学院大学



紅毛人硯屏【西南学院大学博物館所蔵】

### 日用品にもこだわる近世人… 特集 紅毛人硯屏 19世紀

ゾーリズ建築を求めて◎ 神戸女学院(講堂)

特別展紹介 平戸松浦家の名宝と禁教政策－投影された大航海時代とその果てに－

所蔵品紹介 日用品にもこだわる近世人… 紅毛人硯屏 19世紀

大学博物館紹介◎ お茶の水女子大学歴史資料館

SEINAN GAKUIN  
1920

## 神戸女学院（講堂）

神戸女学院は、1875年(明治8年)に米国伝道会の女性宣教師によって創設されました。1929年(昭和4年)のキャンパス移転の際にヴォーリスが設計を手がけ、現在でも残る音楽館、図書館、文学館などを含め、18棟もの建築物が完成しました。それらはヴォーリス建築の特色のひとつであるスパニッシュ・ミッション・スタイルを基調としており、アラベスク文様や飾り窓などの装飾により女学院らしい優雅なイメージを与えます。

そのひとつである講堂はキャンパスのほぼ中央に位置しています。内部は、当時のヴォーリスらしい半円形アーチの装飾がステージや窓にほどこされています。800席あまりを備え、時折演奏会などにも使われるそうです。

博物館GP研究員 内島美奈子



(写真提供元 神戸女学院)

### 【大学博物館紹介⑭】

## お茶の水女子大学歴史資料館

お茶の水女子大学歴史資料館は2006(平成18)年に大学本館に設置されました。本館は関東大震災後の1932(昭和7)年に建てられた建物で、同年に中庭に建てられた徴音堂(講堂)とあわせて登録有形文化財に指定されています。

お茶の水女子大学は昭憲皇太后から下賜された御製歌による校歌「みがかずば」で知られているように、その前身であり、わが国最初の女子高等教育機関である東京女子師範学校の1875(明治8)年の開学時から皇后と深い関わりをもっています。

展示資料には、かつて講堂内に掲げられていた「明治天皇像」、「昭憲皇太后像」や、日本初の幼稚園の保育風景を描いた「二十遊嬉之図」、ドイツ人教育学者フレーベル考案の教育玩具「恩物」などがあります。また、中庭に面した展示室には、かつてその部屋が洋式作法



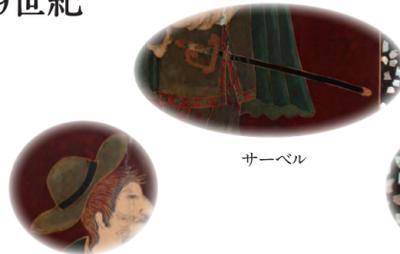
室として使われていた際の石張りの暖炉が保存されており、当時の女学生達の授業風景を想像できるつくりになっています。お茶の水女子大学の歴史を通して、わが国の女子高等教育、幼児教育の歴史を知ることができます。

博物館GP研究員 貞清世里

開館時間 / 10:00~17:00(入館は16:30まで)  
開館日 / ホームカミングデイ(5月)、オープンキャンパス(7月)、特別公開期間  
特別公開期間外は事前申し込み制で開館。※詳細は要問合せ  
連絡先 / 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学図書・情報チーム情報基盤係  
TEL 03-5978-5567 E-mail:shiryo@cc.ocha.ac.jp  
URL / http://archives.cf.ocha.ac.jp/guide\_shiryokan.html/

### 所蔵品紹介

## 日用品にもこだわる近世人… 紅毛人硯屏 19世紀



西洋帽子



サーベル



無造作に配された青貝細工



近世日本ではポルトガル人やスペイン人を“南蛮人”と称し、オランダ人を“紅毛人”と言いました。南蛮人が華夷思想に基づく表現であるのに対して、紅毛人はまさに身体的な特徴からのものになります。幕府による海禁(鎖国)政策の遂行にともない平戸オランダ商館が1641年に長崎・出島へ移転されます。オランダ人は出島での生活を余儀なくされ、日本人との接触を制限されたことから貴重かつ珍貴な彼らをモチーフとした美術工芸品が多数作られるようになりました。

本資料はまさにオランダ人をモチーフとしたもので、中央に配されるオランダ人が振り返りながら歩を進める姿を描いています。腰にはサーベルを帯び、帽子をかぶり、マントもつけてい

ることから邸宅外の様子になるでしょう。また、西洋靴の足元にわずかにある草々からも、外出時の様子を描いていることを裏付けます。なお、画の周囲には螺鈿(青貝)細工がほどこされており、控えめながらも日本人の職人技術の高さがうかがい知ることができます。

この資料は本来、硯屏としてつくられたものではなく、後年に仕立てられたものになります。硯屏は硯の近くにたてて、埃などが入らないようにするためのものでした。当時の人は日用品であった硯屏に仕立て直すほど、オランダ人の意匠は重宝されていたのです。

## 学芸員の眼 — 企画展の醍醐味 —

本学博物館では春と秋の年2回の特別展を開催しています。本学に着任して以降、“連携”をキーワードに九州のキリスト教シリーズや大学博物館共同企画シリーズを実施してきました。前者は九州各地の博物館や地方公共団体、後者は大学博物館を有する大学と共同企画した展覧会を行なっています。回を重ねるごとに、「次は私たちともお願いします」という好意的な意見を寄せていただきます。

本学博物館は開館して8年目を迎えましたが、実績にともない信用も生まれてきていることを肌で感じます。また、船の科学館・海と博物館ネットワークからは幾度もご支援をいただき、本年度も松浦史料博物館と連携した特別展を開催することができました。今後も全国各地にある博物館・大学博物館を連結する核となる取組をすすめていこうと思います。

博物館学芸員 安高啓明



松浦史料博物館との連携【2013年度春季】



神戸大学海事博物館との連携【2012年度春季】



天草市教育委員会との連携【2011年度春季】



## 博物館通信

2013年1月から6月までに行なった博物館活動や出来事のなかからいくつか紹介します。

1月26日(土)、本学大学院国際文化研究科の冬季発表会が開催されました。

3月3日(日)、福岡商工会議所主催の西新まちあるきの方々の見学がありました。

3月21日(木)、卒業式が挙行されました。

4月27日(土)、西部地区五大学「博多学」の受講者の来館がありました。

5月18日(土)、「国際博物館の日」に参加し、来館者に特別展図録かオリジナルバッジを配布しました。

5月18日(土)~26日(日)、福岡ミュージアムウィークに参加しました。

5月18日(土)ワークショップ2013「せいなんウォークラリー」を実施しました。

6月29日(土)、長崎純心大学「長崎学講座」の受講者のご来館がありました。

6月8日(土)~8月3日(土)、春季特別展「平戸松浦家の名宝と禁教政策」を開催します。

2013年度春季特別展「九州のキリスト教シリーズⅣ 平戸松浦家の名宝と禁教政策—投影された大航海時代とその果てに—」は船の科学館・海と船の博物館ネットワークからの支援事業に採択されました。

## スタッフの声

夏が訪れる時期に、西南学院大学博物館は2013年度の特別展を迎えました。今回は平戸松浦家の名宝と禁教政策をテーマとして、特別展を開催させていただきます。主な内容としては、大航海時代に貿易で賑った平戸市と江戸幕府の禁教制度により異国の情趣を失ってしまった平戸藩の姿を紹介していきたいです。

また、外国の方も楽しめるように、今回の特別展では、英語と中国語の解説文も用意しておりますので、外国の方もぜひお越しくださいようお願い申し上げます。



臨時職員  
本学大学院国際文化研究科博士前期課程  
方圓

〔大学周辺情報⑬〕  
西南学院大学のキャンパスを歩いていると、たくさんの種類の植物を見かけると感じます。どれもそれぞれの魅力を持った植物たちですが、中でも印象的なのは、博物館前に咲き誇っている百合の花ではないでしょうか。  
この百合の花は、西南学院大学の会より2005年に寄贈されました。以来、毎年夏になると白い花弁をいっぱい広げて西南学院大学を彩っています。松の緑や赤煉瓦が大学カラーである中、百合の白は驚くほど目を引きまします。  
百合の花以外にも、西南学院大学では様々な植物を鑑賞することができます。みなさんもぜひ、これらの植物たちの姿、エネルギーを眺めてみてください。

下園知弥



町あるきの方々の見学風景



博多学の講義風景



ミュージアムウィーク期間の見学風景



ワークショップ集合写真



「平戸松浦家の名宝と禁教政策」展の様子